

# 乳酸菌生成エキス使用による 口腔内細菌数の変化

■比嘉歯科医院 副院長 比嘉 貴子 先生  
■日本歯科東洋医学会第29回学術大会学会誌 p22



比嘉 貴子先生

## 【目的】

乳酸菌生成エキス使用者の口腔内細菌数の変化について提示し、乳酸菌生成エキスの歯科応用について考察する。

## 【対象及び方法】

- ① 乳酸菌生成エキス使用者 (n=7) のミュータンス連鎖球菌数 (MS数) を、飲用前と飲用1週間後に、BMLう蝕検査を用いて測定し、未使用群 (n=6) も同様に検査し、それぞれ符号付順位和検定を行い、比較した。
- ② 口腔清掃指導終了後、BML日和見感染検査にて、日和見菌が検出された患者2名に対し、乳酸菌生成エキス使用後、再検査を行い、使用前後の結果を比較した。
- ③ いずれも飲用量は1日あたり 10ml×2 本であった。また、検査前2時間は、口腔清掃や飲食を制限した。

## 【結果】

- ① 乳酸菌生成エキス使用群は、飲用後、有意にMS数が減少した。(p<0.05)(Fig.1)  
未使用患者6名グループについては、1週間後、変化は見られませんでした。
- ② 使用群は、飲用後、全症例において、齲蝕菌比率 (MS数/総レンサ球菌数) が2%以下を示した。(Table1. / Fig.1.)
- ③ 日和見菌検出者2名において、乳酸菌生成エキス飲用後、菌の検出は認められなかった (カンジタ菌: 飲用前 (+)→飲用後 (-)、肺炎桿菌: 飲用前 (2+)→飲用後 (-))。また、腎機能異常値を有する患者1名では、乳酸菌生成エキス使用後の血液検査と尿検査において、結果の改善が認められた。他項目においては、若干TPが低下した以外、正常値を維持していた。

### 《改善がみられた腎機能項目》

- ・尿潜血 2+ → 1+      \* 基準値 -
- ・血中尿酸値低下 7.9(mg/dl) → 6.9(mg/dl)  
\* 基準値 ~ 7.0(mg/dl)
- ・尿蛋白 3+ → 2+      \* 基準値 -

## 【考察】

乳酸菌生成エキス使用群のMS数が、未使用群と比較して、有意に減少した結果は、乳酸菌生成エキスの使用が、MS数を減少させた可能性を示唆している。今後、う蝕予防との関わりについては、長期使用、多数症例の結果が望まれる。また、本症例のように、腎機能異常などの有病者の口腔状態を改善する目的でも、毎日のケア、身体に負担が少ない方法として、その応用が期待される。

Table1. 齲蝕菌比率 (MS数/総レンサ球菌数)  
リスク基準値2% (唾液検査ハンドブック/鴨井久一、他)

使用群	患者A	患者B	患者C	患者D	患者E	患者F	患者G	平均
飲用前	0.1(%)	1.7	2.1	0.5	5	0.5	4.4	2.04
飲用1週間後	0.1	0.4	1.2	0.2	0.9	0.1	1.5	0.62
結果	変化なし	低下	低下	低下	低下	低下	低下	

未使用群	患者H	患者I	患者J	患者K	患者L	患者M	平均
飲用前	2.7(%)	0.1	0.4	0.6	5	5	2.3
飲用1週間後	2.1	0.1	1.6	0.5	5	5	2.38
結果	低下	変化なし	増加	低下	変化なし	変化なし	

Fig.1. 口腔内細菌数の変化

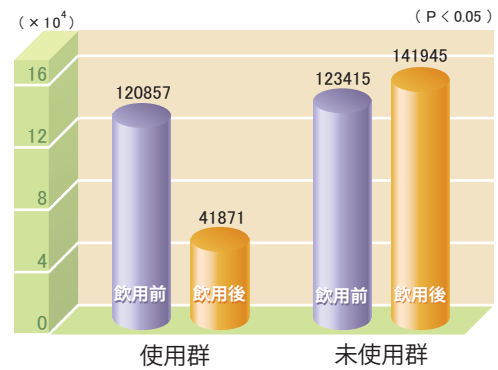


Fig.2. 飲用による齲蝕菌比率の低下

